

# 国文学研究資料館特別展示目録 三

—「古今集」初雁文庫を中心として—

この展示は故西下経一博士の御遺族より御寄託いただいた初雁文庫の内より、古今和歌集に  
関する書目を中心に選り出し、当館所蔵のものと併せて、通覧していただく為に開催いたしました。

目録中の解題は西下博士の御著作を中心に、参考室が作成したものでございます。

なお、巻末に西下経一博士略年譜、及び（寄託資料）初雁文庫目録抄を付しました。

昭和五十三年六月二十四日

1 古今和歌集 版本 合一冊 27 × 19.5 12 | 58

もと二冊本であったものを一冊に合綴したもの。刊年は不明であるが、版元は「洛陽書肆 辻勘重郎新彫」と真名序の末尾にある。西下博士の手に依って諸本との校合が綿密に行なわれ、博士の古今和歌集研究の基礎ともなった本である。

2 古今和歌集 版本 二冊 28 × 20 12 | 56

刊行年次不明。帙に光悦本とある。鉛筆で西下博士の書き入れがある。本文は貞応本。

3 古今和歌集 写本 二冊 23.8 × 17.7 12 | 16

奥書に、

①貞応二年七月廿二日癸亥戸部尚書藤在判

同廿八日令詭合訖書入落字畢

傳子嫡孫可為将来之証本

②元応元年九月九日為門葉相令書写訖

同十二月廿日校合畢 釈頼阿判

観応二年十月三日書写畢 西方行者頼阿

③永正竜集乙亥閏二月中旬

槐陰逃虚子在判

4 古今和歌集 写本 一冊 23.6 × 15.7 12 | 23

奥書は貞応二年七月二十二日癸亥写、二十八日校の定家のもの、和歌所舊老大僧都のもの、文明七年十二月二十

一日、常縁のものがある。又、極礼は古筆のものが付されているが、印のみ見えて文言は判読できない。表紙、裏表紙もなく、外題もない。

5 古今和歌集 写本 一冊 22.5 × 15.5 12 | 15

奥書は、貞応二年七月二十二日写、二十八日校の定家のものに続いて、元応元年九月九日写、十二月校の頼阿のもの、永正七年二月二十五日の足利政知のもの、最後に冷泉為和のものがある。極礼は小林了可のもので遊紙に帖り込まれている。表は「勝幢院殿政知卿古今集全部東山殿御舍弟（印）」とあり、裏は「一冊奥書在判アリ戊寅十一（印）」とある。箱には「公方家童勝院殿政知／外題良純親王／古今和歌集 全部／奥書 冷泉殿為和／墨付百七拾七枚」とある。

6 古今和歌集 写本 二冊 24.2 × 18 12 | 17

奥書は、貞応本の「此集家々所称……志同者可随之」の文言を残しながら書写、校合年時及び定家の署名を削り「延徳元年十月晦日 蓮花寺向坊良覚」と記す。更に「以証本無相違今写之者也 慶安四年卯五月十八日 盛雅」の奥書がある。

7 古今和歌集 写本 二冊 22.5 × 17 12 | 22

所謂、貞応本であるが以後の伝写は不明である。上巻裏見返に添付された古筆の極礼に「宗祇同宿宗梅」とある。宗梅については宗祇右筆とするものと、堺連歌師とするものの二種の極礼が知られている。

本書の表紙中央には武田文庫の蔵書印がある。

8 古今和歌集 写本 二冊 27.5 × 19 12 | 27

西下経一氏の昭和四年十二月八日の識語に、「此の本嘉禄本なることは奥書にても本文の異同によりても知らる

——中略—— 原本は伝来正しき写本と見けれど朱点を省き濁点を入れたり書物の形式は足利末又は徳川始なるへし」とある。又、巻末の真名序は墨色から後人の加筆であろうと判断している。

9 古今和歌集 版本 四冊 22.5 × 16.2 12 | 60

第三巻は享保六年の補写である。三巻を除く各巻に挿画があり全体で三十七図になる。口絵以外は半丁に歌人の肖像を描く。

刊記は、

延宝七年

押小路柳馬場東へ入町  
伊丹屋吉右衛門

開板

巳未季冬吉辰

魚棚通堀川西へ入町  
鷹羽屋仁左衛門

とあり、その後に真名序が続く。

10 古今和歌集 版本 二冊 16.1 × 11.2 12 | 63

寛文十三癸丑年孟春吉日

浅見吉兵衛 開板

右の刊記を持つ。底本は貞応本である。浅見吉兵衛は京都の書肆である。

11 古今和歌集 版本 二冊 19 × 14 12 | 64

刊記は、

享保十四酉歳湯生日

大坂長堀心斎橋北詰

書林

泉屋卯兵衛藏

と下巻七十九丁裏にあり、その後に真名序が続いている。挿画は全部で十六葉あり、仮名序の後に口絵のように続いている。

12

古今和歌集

版本

一冊

16.7  
×  
9.5

12  
|  
65

刊記は左の如くである。

正徳竜集甲午正月原板

文化八年歳次辛未之春再板

日本橋通三丁目

東都書林

須原屋平助

寺町通二条下ル町

野田治兵衛

三条通柳馬場東へ入

堺屋仁兵衛

13

古今和歌集

版本

一冊

8.3  
×  
18.2

12  
|  
66

刊年は文政六年。版元は植村藤右衛門、須原屋平左衛門、出雲寺文次郎の京都の三書肆である。出雲寺の部分だけ朱印になっている。巻末の大江広海の跋文に依ると、植村藤右衛門が袖珍本の企画をたて、貞応本を底本として大江広海に校閲を請うたものである。

14 三代集 版本(小型本) 一冊 8.5 × 6.5

12—74・3

古今和歌集の刊記は、「安永九年庚子初春再刻 美洛 榎村錦山堂藏」、後撰和歌集は「寛政十年午孟夏 皇都書林 出雲寺文治郎 遠藤平左衛門 吉田四郎右衛門」とあり、拾遺和歌集は「寛政十一年巳未初秋発兌 皇都書舗 小川源兵衛 吉田四郎右エ門 須原屋平左エ門 出雲寺文治郎」となっている。古今集は享保二年刊本の再版である。

15 古今和歌集 版本 一冊 23.2 × 16.7

12—59

刊記を欠く。本文は9.2 × 12の匡郭内にあるのに対し、余白が非常に大きい。余白には書き入れが見られ、書き入れを胡粉で訂正している所もある。この特殊な造本は書き入れを目的とした為であろう。本文は八代集本である。

16 古今和歌集 写本 二冊 29.5 × 19.3

99—2

嘉禄本である。『古今集の傳本の研究』(西下経一)で弘文荘書目第三号を引いて解題されている本で、冷泉為和の自筆本である。

奥書は、

右集依前内府実望公懇望、以家相傳京極中納言定家卿自筆本不改一字愚息為和卿書写之尤可為証本者也 于時  
永正第十六天初夏上澣日 桑門宗清(花押)

二世畠山牛庵の添状一通と古筆の極札二枚が附されている。

(当館蔵)

17 古今和歌集 写本 一冊 26.7 × 17

99—3

貞応本である。大内政弘のために聖護院准三宮道興が書写、將軍義政が題簽を書く。道興は近衛房嗣の子。奥書によると文明三年十月下浣に書写され、三日間で成ったと言う。政弘は文学の素養があり、この年に古今伝授をう

けた宗祇との親交も深かったが、この年はまだ応仁の乱の余燼が消えず、その上政弘の伯父の教幸が反逆し、政弘は極めて多忙であった。

(当館蔵)

18 古今和歌集 写本 一冊 26 × 17.3 99 | 4

頼阿自筆と言われ、古筆了延の折紙が添えられている。

奥書には、

元応元年九月九日為門葉

相承令書写訖

西方行者頼阿

とある。

(当館蔵)

19 頭註密勘 版本 二冊 27.6 × 19 12 | 83

八冊 27.6 × 19 12 | 82

写本 一冊 26.3 × 19 12 | 49

三冊 26.7 × 18.8 12 | 84

頭昭の古今注に定家が補筆を加えたもの。群書類従にも収められ多く用いられた注釈書である。12 | 83本は阿波国文庫旧蔵本。12 | 49は版本から西下博士が抄写したもの。12 | 84は南北朝期のものの転写である。

20 僻案抄 版本 二冊 26.4 × 17.2 12 | 85

定家の三代集の略註。古今集に就いては六十首の歌、その他若干を取扱っている。基俊・俊成以来の説に定家自

らの意見を加えたものと考えられる。『顕註密勘』と重複する歌が多い。  
本書は刊記を欠く。

21 古今為家抄 写本 五冊 27 × 21.5 12 | 86

仮名序の後に「弘長三年八月四日自中務親王家被召之。仍進覧云々但私本を以少々勘入之云云」の識言があるが五巻目には識語を欠いている。巻一から巻十四までの注には冷泉家流伊勢物語古注の影響が考えられている。

22 古今和歌集抄 写本 一三冊 23.5 × 17 12 | 112 · 1-13

西下経一氏の付箋に、

此抄は内閣文庫蔵の「古今増抄」（欠本、作者不明）と全く同じ足利時代末期に於て諸註を集め、又古註として為家抄、顕昭註、奥儀抄等をひけり、——中略——諸註の内に冬良の註あり、冬良の註は現存本なし此書実に珍本といふべきか、

昭和三、十一、廿二日

西下経一

とある。

23 古今集序秘抄 写本 一冊 17.2 × 24 12 × 115

奥書に、

故有平先生隠密の書也 仰くにますます高く今懇望に随ひ授与に及ふ 妄りに他見をいとふものなり

真淵（花押）

寛延四年未中夏

五嶺館芳主

とある。内容は、片桐洋一氏の『中世古今集注釈書解題二』に翻刻された「古今和歌集序聞書三流抄」の一本である。

24 古今和歌集注 写本 二冊 27.8 × 20.4 12 | 145

中世の古今集注釈書、作者は不明。識語、奥書等はない。内容は『未刊国文古註釈大系』所収の「毘沙門堂旧蔵本古今集註」とほぼ同内容である。歌の解釈には、説話的解説も付せられ、そのものとしても面白いが、特に強い神秘思想は見られない。

25 古今集序注 版本 五冊 26.3 × 17 12 | 92

明暦四年刊。奥に「于時<sup>丙</sup>仲秋上旬候了<sup>六</sup>誉誌之<sup>十</sup>六歳」とある。文体は願昭註を摸しているが実は親房の注に依拠し、序を四段に分け、或は文中に『神皇正統記』を引用している。（西下博士『国語と国文学』第十一卷四号「古今和歌集研究史」より）

26 古今集童蒙抄 写本 一冊 24.6 × 17.2 12 | 101

一条兼良の古今集注釈書。奥書に依ると江戸ごく初期、元知なる者の書写。兼良の姿勢は、鎌倉時代の超現実的な秘伝の世界から、合理的な解釈へ古今集を戻そうとする所にあり、注釈内容も隠当なものとなっている。

27 古今抄延五記 刊本 二十冊 26.7 × 16.7 12 | 96

堯恵の古今集注釈書、二十一巻、二十一冊であるが、一冊欠本がある。刊記なし。

三鳥等、秘伝の部分は註が略されており、堯恵流の秘伝書としては『序中秘伝切紙』『古今箱伝授』と補完関係にある。本書は『序中秘伝切紙』とともに、『新撰菟玖波集』の作者であり、山内上杉氏の家臣と推察される藤原憲輔に与えられたものである。

28 古今箱伝授 写本 一冊

28.2  
×  
19.6

12  
|  
167

堯惠流の古今伝授書。後半部は『序中秘伝切紙』である。内容は『古今二字相伝』に同じ。12—150の『序中秘伝切紙』では本書と順番が入れ替って、後半が『古今二字相伝』になっている。

内容は、中世の神仏習合思想を背景にした秘伝で、特に本書に於ては中世神道の諸説が基盤として用いられている。寛延元年の書写。

29 序中秘伝切紙 写本 一冊

27.6  
×  
20.2

12  
|  
150

本書は後半が『古今二字相伝』となつて、12—167本とは順序が逆になっている。前半の『序中秘伝切紙』は、本地垂迹思想を基に仮名序を注したもので、堯惠の『古今集延五記』の秘伝部分に当り、『古今抄延五記』と同じ奥書を持っている。

30 古今和歌集灌頂口伝 写本 一冊

27.2  
×  
18.9

12  
|  
164

写本 一冊

23.6  
×  
16.4

12  
|  
153

古今和歌集の秘伝書。12—164本は江戸時代中期の写。12—153本は江戸時代後期の写である。下巻末尾に「正安元年二月十七日 前大納言為世在判」とあつて、本書が為世の作ではないにしろ、二条家流のものである事が知られる。従つて、所謂、宗祇流を中心とした室町末から江戸初期にかけて流行した古今集伝授の類とは系統を異にしている。

31 古今和歌集灌頂口伝 写本 一冊

17.7  
×  
24.2

12  
|  
163

12—164本、12—153本と同一内容の部分に「金玉雙義」「身足翁義号三公伝」等の数首の口伝を加えたもの。江戸時代後期の写と見られる。本文は12—164本、12—153本と較べて詳細になっている。「金玉雙義」等の付加部分をも含

めて鎌倉末から室町初期にかけて流行した口伝である。

32 和歌灌頂次第秘密抄 写本 一冊 24.2 × 16.1 12 | 200

古今集仮名序を中心とした秘伝書。後半部には他の秘伝が付されている。端作りには異本から補った「二位家隆撰」の記事があるが信すべきではないだろう。説の内容は中世伝授に特有な神秘思想に貫かれており、所々に「天正十九年十二月十六日 遊行廿三世他阿 授与称念寺其阿」とある。最終的な書写は「正徳四 十月十五日伝之者也云云」とある。

33 古今口伝秘鈔 写本 一冊 24.7 × 16.2 12 | 161

古今集注釈書、注釈の内容は簡単であるが、声点はかなり重視されている。北畠親房の『古今序注』、『十吟抄』などと若干の関連が考えられている。

奥書等はないが、箱書では栄仁親王を筆者としている。この説は首肯し難くとも、本書は南北時代前後の注目すべき注釈書とされている。

34 古今集両度聞書 版本 五冊 27.7 × 19.5 12 | 97

六冊 26.5 × 19.4 12 | 99

元来六冊本であるが、12 | 97本は巻一と巻二が合綴されている。12 | 97本は寛永十五年、風月宗智の刊行。12 | 99本は万治二年、吉野屋権兵衛の刊行で寛永版の再版である。

文明三年正月から四月まで、宗祇が東常縁から二度にわたって受けた講説の聞書を記したものである。

35 古今和歌集註 写本 二冊 25.2 × 20.3 12 | 148

延宝四年六月に宗久から今井氏へ贈られた古今集注釈書。堯恵の説を参照する事が多く、朱筆で声点が施されて

いる。上下巻はそれぞれ筆蹟を異にする。

36 和歌秘録

写本 一冊

23. 2  
16. 5

12  
183

天明五年四月二十四日に湯浅定方の筆写である。内容は宗祇流の古今伝授で、「古今伝授切紙口伝」「古今集切紙聞書」「内外口伝歌」に分かれる。12―171とほぼ同内容だが、朱筆注記にある如く「忘草の事」以下八項目はこの本にのみある。又、12―17の巻末にある真名序の注はない。

37 古今集切紙

写本 一冊

23. 1  
16. 1

12  
171

元治二年季春下旬に光輔が書写した。内容は宗祇流の古今集秘伝切紙の集成である。「古今伝授口伝条々」と「古今集内聞書」、「内外口伝歌」、「古今真名序」、「宗祇以自筆本写之」とする真名序の注とその秘説とが記されている。

38 三鳥伝

写本 一冊

24. 1  
17. 4

12  
165

宗祇流の古今集秘伝切紙の集成で、12―183『和歌秘録』等とほぼ同じ内容を持つ部分があり、それに、基俊にはじまり寛文二年忠方に至る伝授の系図、「稽古方系」と題する系譜、目録と「三鳥ノ大事」にはじまる幽斎流の古今伝授とが附されている。これ等は他本からの付加と考える。

奥書は「于時宝暦三癸酉戴仲夏写之 直堅（花押）」とある。

39 切紙口伝條々

写本 一冊

24. 7  
17. 3

12  
175

内容は『和歌秘録』『古今集切紙』と同じく、宗祇流の古今伝授切紙の集成である。書写年代は不明であるが「天正元年八月吉日 元如」「元和五年三月十五日 友松兵頭」「慶安二年五月吉日 藤原高滋」の奥書があり、「此奥書有本を得て校合竟」とある。更に、丁を改め、温明殿について河海抄を引用した注記と、常縁・宗祇・実

隆について簡単な覚書がある。又、表紙見返に帖込まれた符箋には「原本 大和上位所蔵ヲ以写之」とある。

40 古今伝秘図 写本 一冊 23.7 × 16.3 12 | 180

古今伝授書の一。『和歌秘録』等、宗祇流切紙十八通と重複するものもある。熊代忠義なる者の書写。冒頭が『古今伝秘図』からはじまっていたため、それをもって一冊の書名としたのであろう。同図は歌人の系譜を住吉明神から頼阿娘まで記したもの。

41 八雲神詠和歌三神大極秘口訣 写本 一冊 25.5 × 18.2 12 | 182

幽斎系の歌道伝授書。吉田神道の影響を受けている。伝授は細川幽斎(玄旨) ↓ 貞徳 ↓ 長孝 ↓ 長雅 ↓ 長如(元啓か) ↓ 喜多知貴 ↓ 太田快繁に至っており、快繁が誰かに伝える為、寛政三年に本書を写したが、何かの理由で伝受者の名を削り消している。

本書の伝本は極めて多い。

42 古今集内伝授 写本 一冊 27.7 × 20.2 12 | 168

幽斎流の秘伝書。奥書に、

士清先生書 拝借大河内重平

明和七庚寅十月十五日 謹写

とある。

常縁 ↓ 宗祇 ↓ 実隆 ↓ 肖柏 ↓ 玄旨 ↓ 貞徳 ↓ 長孝 ↓ 長雅に伝えられたもの。12 | 182 『八雲神詠和歌三神大極秘口訣』と同系の秘伝書である。

43 古今傳授相承図 写本 二冊 34×24.3 12 | 201・1-2

西下博士が『古今和歌集』の諸伝本及び多くの伝授書の研究の過程でまとめられた古今伝授の系統図。12 | 201・2は草稿であり、12 | 201・1は完成品であろう。博士自身の奥書に、

右ハ古今傳授ノ血脈図ヲ作ル目的ナリシモイツノマニカ歌道傳授系図トナリ、又家系図トナリタリ

昭和八年八月廿八日 西下経一

とある。

44 古今余材抄 写本 十一冊 27.3×18.7 12 | 114

契沖著。古今集の注釈書。元禄四年に稿本が成立、翌年に完成した。本書には奥書を欠いている。清水浜臣の蔵書印があり、その書き入れかと思われる朱筆が入っている。西下博士は『古今余材抄』の特色として「旧註を批判して其の中から妥当な説を定めようとしたこと、用例を豊富に集めて帰納的に語意を考へようとしたこと、本文考異を解釈に援用した事」を挙げている。

45 教端抄 写本 九冊 27.4×19.2 12 | 111・1-9

北村季吟の古今集注釈書。伝本が少なく、この外には日本大学図書館本が知られているにすぎない。この本は第九冊の仮名序注の末尾に「元禄十二年十二月十二日書于向南亭雪窓下 法眼季吟七十六歳」とあり、日大本より三年早く成立している。内容は諸注集成的注釈であって十二部の先行注釈書が参照されている。

46 古今打聴 版本 五冊 26×18 12 | 123

賀茂真淵著。二十卷二十冊のものを五冊に合綴した。寛政元年、江戸の西村源六、大阪の渋川与左衛門、増田源兵衛によって刊行された。西下博士は本書の特色を「芸術的直観によって、一首の歌が一つの作品として生きるや

うに解いたこと、古語に対する趣味から古今集を解釈しようとしたこと、考証学の立場から解釈を新しくしたこと等である」と説明する。

47 古今和歌集遠鏡 版本 八冊 18.1 × 11.8 12 | 126

本居宣長の注釈書。寛政九年に刊行されたものを、版形を変え、注釈を頭注の形に直し天保十四年に刊行したのが本書である。本書の特色は、忠実に当時の口語に、序及び歌を訳した所にある。

12 | 127の『古今集遠鏡補正』は、中村知至が『遠鏡』に不満足な所を補ったもので、特に、宣長が意識的に取り上げなかった中国の故事を詠じた歌の解などを補った。

48 古今和歌集正義 写本 十八冊 27.5 × 19.5 12 | 134

版本 九冊 25.4 × 18 12 | 133

活字本 四冊 22 × 15.1 12 | 139

写本は香川景樹の自筆稿本などから転写したもの、嘉永二年から万延元年までに高橋正純が書写したもの。版本は嘉永二年に京都の書肆、出雲寺文次郎等が刊行したもの。活字本は明治二十八年に発行されたもの。翌年の洋装刊本もある。版本は冬の部までで賀の部以降は刊行されなかった。

49 堀河院百首和歌 写本 一冊 25.5 × 19.5 12 | 336

十六人本の内でも京都大学附属図書館本と同じく、書き入れ注を欠く。奥書はないが、見返しに「堀川百首 日野正広正筆」との極札を貼る。江戸初期の写本であろう。

50 堀河院百首和歌 写本 一冊 21.5 × 17.3 12 | 337

天正十九年以前の書写である。本文は書陵部蔵列帖装本（室町中期写）、大東急記念文庫古梓堂文庫本等に近い

といわれるが、改装に際し、永縁・伯願仲歌を増補したと見られる。こうした増補は他に数例があるのみで希少な例であり、室町時代流布の本文を伝えるものとして貴重である。

51 後拾遺和歌集 写本 一冊 24.8 × 18.0 12 | 240

藤原通俊撰。室町末写。東野州の筆と伝えるが、遊紙に貼紙があり、野州筆ではないとする。奥書はない。諸本としては第六種本（自筆本系）に属す。

52 後拾遺和歌集 写本 一冊 23.0 × 15.5 12 | 241

本書は流布本系の本文を持つ。本文中に古筆の極札が貼込まれ梶井殿堯胤法皇の筆とする。堯胤は邦高親王の弟で後花園天皇猶子とも言われる。明応二年から永正十五年の天台座主である。

53 其紫湖月雙六 版 一枚 12 | 496

54 そのゆかり源氏寿古六 版 一枚

『源氏物語』の双六と言われるが、もともになったのは『修紫田舎源氏』や『室町源氏』と言われる幕末の合巻である。どちらも幕末のもの。其紫湖月雙六は弘化四年〜嘉永五年の出版であろう。そのゆかり源氏寿古六は安政六年から明治四年にかけて、おそらく明治二年頃の刊行と思われる。

西下経一博士略年譜

- 明治三十一（一八九八）年 岡山県津山市に誕生。
- 大正 七（一九一八）年 津山中学校を卒業、東京高等師範学校に入学。
- 大正 十一（一九二二）年 東京高等師範学校卒業、佐賀中学校教諭となる。
- 大正 十二（一九二三）年 東京大学国文学選科入学。
- 大正 十五（一九二六）年 東京大学国文学本科入学。
- 昭和 二（一九二七）年 東京大学卒業、副手となる。
- 昭和 四（一九二九）年 第六高等学校講師、同年六月教授となる。
- 昭和 五（一九三〇）年 岩波文庫『更級日記』成る。
- 昭和 八（一九三三）年 『古今和歌集新講』（三省堂）成る。
- 昭和 十五（一九四〇）年 岩波文庫『後拾遺集』成る。
- 昭和 二十三（一九四八）年 朝日古典全書『古今集』刊。
- 昭和 二十八（一九五三）年 東京大学より文学博士授与。
- 昭和 二十九（一九五四）年 学位論文『古今集の伝本の研究』（明治書院）刊、東京教育大学教授就任。
- 昭和 三十二（一九五七）年 『古今和歌集新解』（明治書院）、日本古典文学大系『更級日記』刊。
- 昭和 三十三（一九五八）年 『古今集総索引』（明治書院）刊。（共著）
- 昭和 三十五（一九六〇）年 三省堂研究史大成『古今・新古今』刊。（共著）
- 昭和 三十七（一九六二）年 上智大学教授に就任。初雁文庫棟上式。
- 昭和 三十九（一九六四）年 一月十七日永眠。

(寄託資料) 初雁文庫目録抄

- 古今和歌集序聞書(写)  
 古今和歌集抄(刊)  
 古今和歌集序注(写)  
 古今集童蒙抄(写)  
 古今榮雅抄(刊)  
 古今和歌注(写)  
 古今血脈抄(写)  
 伝授抄(写)  
 古今和歌集序註(写)  
 教端抄(写)  
 古今和歌集抄(写)  
 古今余材抄(写)  
 古今集序秘抄(写)  
 古今集序存疑(写)  
 古今集相伝之記(写)  
 古今和歌灌頂卷(写)  
 古今口伝(写)  
 古今通(写)  
 古今生弓抄(写)  
 古今打聴(刊)  
 古今序注五十連言(写)  
 古今和歌集遠鏡(刊)  
 古今集遠鏡補正(刊)
- 古今集活注(写)  
 古今和歌集伝之弁(写)  
 古今和歌集類題(刊)  
 古今集真名字解(刊)  
 頭書古今和歌集(刊)  
 古今和歌集正義(写刊各一種)  
 古今和歌集朗解(刊)  
 古今和歌集ひなことは(刊)  
 古今和歌集大全(写)  
 古今和歌集(古今秘注書入)(写)  
 古今和歌集注(写)  
 家伝書(写)  
 古今和歌集注(写)  
 序中秘伝切紙(写)  
 古今天真独朗之卷(写)  
 古今和歌集灌頂口伝(写)  
 古今和歌集伝授切紙(写)  
 古今切紙(写)  
 中院古今伝授極秘事抄(写)  
 古今切紙(写)  
 和歌之切紙(写)  
 古今集秘伝(写)  
 古今和歌集相伝深秘抄(写)
- 古語拾遺(刊)  
 仏足石和歌集解(刊)  
 催馬楽・古本風俗誌(写)  
 神楽譜(写)  
 神楽注秘抄・催馬楽注秘抄(写)  
 古今和歌集(写一六種、刊一八種)  
 古今集灌頂部秘歌百十六首注(写)  
 古今和歌集序注(写)  
 古今秘註抄(写)  
 顯注密勘(刊)  
 顯注密勘(刊)  
 顯註密勘(写)  
 僻案抄(刊)  
 古今集為家抄(写)  
 古今為家抄(写)  
 古今和歌集序註(刊)  
 古今序注(写)  
 古今集抄(写)  
 古今抄延五記(刊)  
 古今和歌集両度聞書(刊)

- 古今口伝秘抄(写)  
 古今三木三鳥伝授(写)  
 古今集灌頂口伝(写)  
 古今和歌集灌頂(写)  
 三鳥伝(写)  
 古今箱伝授(写)  
 三鳥三木切紙伝并古今次序(写)  
 古今集内伝授(写)  
 後水尾院御集(写)  
 古今集切紙(写)  
 古今和歌集註(写)  
 古今集口訣(写)  
 切紙口伝条々(写)  
 古今切紙伝(写)  
 古今切紙廿三ヶ条口伝(写)  
 切紙(写)  
 古今十卷之切紙(写)  
 古今伝秘図(写)  
 古今秘奥(写)  
 八雲神詠和歌三神大極秘口訣(写)  
 和歌秘録(写)  
 三箇秘授(写)  
 歌書の大事(写)
- 歌の秘書(写)  
 和歌秘録(写)  
 古今二字相伝(写)  
 古今和歌集六義考(写)  
 古今和歌集調海(写)  
 質疑(写)  
 古今集百人一首(刊)  
 和歌灌頂次第秘密抄(写)  
 権跡古今集歌切(刊)  
 古今和歌集序注(写)  
 古今和歌集注(写)  
 二条家古今集奥儀口伝(写)  
 古今集之中伝授之事書拔(写)  
 歌道筒守(写)  
 古今集撰者三鳥伝源起并口受聞書之分  
 (写)
- 古今奥秘口訣(写)  
 古今集序・古今六鳥八柏之事(写)  
 古今伝授相承図(写)  
 千載和歌集(刊)  
 仮名遣相伝(写)  
 後撰和歌集(刊六種)  
 後撰和歌集標注(刊)
- 言葉のつかね緒(刊)  
 拾遺和歌集(刊四種)  
 後拾遺和歌集(写)  
 後拾遺和歌集抄(写)  
 三奏本金葉集(刊)  
 新古今和歌集(刊四種)  
 小野小町家集(刊)  
 三代集(刊)  
 三代集類題(刊)  
 歌仙家集(刊)  
 菅家新撰万葉集(刊)  
 桧垣家集補註(刊)  
 源重之女集(写)  
 赤染衛門歌集(刊)  
 伊勢大輔集(写)  
 散木奇歌集(写)  
 待賢門院堀川集(写)  
 忠度集(刊)  
 瓊玉中書王御歌(写)  
 為家集(写)  
 金槐和歌集(写二種、刊三種)  
 新撰和歌集(刊)  
 古今和歌六帖(刊)

- 古今和歌六帖標註(刊)  
古今和歌六帖拾遺考証(写)  
能因玄々集(刊)  
月詣和歌集(刊)  
月詣和歌集補(刊)  
色葉和難集(写)  
物名和歌私抄(刊)  
堀川百首(写二種)  
大井河行幸和歌考証(刊)  
日本紀竟宴和歌集(刊二種)  
十体無名和歌秘伝集(写)  
能因法師歌枕(写)  
能因歌枕(刊)  
俊頼口伝集(写)  
俊頼髓脳(写)  
清輔奥義抄(刊)  
袖中抄(刊)  
詠歌大概抄箋(刊)  
無名抄(写)  
無名抄(刊)  
綺語抄(写)  
和歌六部抄(刊)  
歌道人物志(刊)
- 真跡臨本三種歌合(刊)  
六百番歌合(刊)  
千五百番歌合(刊)  
和漢朗詠集(刊)  
和漢朗詠集註(刊)  
新撰朗詠集(刊)  
梁塵愚案抄(刊)  
土佐日記(写二種、刊二種)  
土佐日記舟の直路(刊)  
土佐日記考証(刊二種)  
土佐日記抄(刊)  
菅家遺戒(刊)  
繪入竹取物語(刊)  
竹取物語解(刊)  
竹取物語抄(刊)  
竹取物語俚言解(刊)  
竹取物語考(刊)  
伊勢物語(写七種、刊五種)  
首書伝授入伊勢物語(刊)  
新校伊勢物語(刊)  
新校繪入伊勢物語(刊)  
注入伊勢物語(刊)  
真名伊勢物語(刊)
- 伊勢物語抄(刊)  
頭書注釈伊勢物語(刊)  
校正伊勢物語抄(刊)  
楷書勢語序(刊)  
伊勢物語奥書秘訣(写)  
伊勢物語秘奥抄(写)  
伊勢物語和歌類句(写)  
伊勢物語阿古根浦秘伝書(写)  
伊勢物語註(写)  
伊勢物語(写)  
伊勢物語註釈(写)  
伊勢物語抄(写)  
伊勢物語傍註(刊)  
伊勢物語題号考(刊)  
伊勢物語闕疑抄(刊)  
伊勢物語抒海(刊)  
伊勢物語改成(刊)  
新版繪入伊勢物語読曲清濁(刊)  
大和物語(写一種、刊三種)  
冠註大和物語(刊)  
大和物語抄(刊)  
宇津保物語(刊三種)  
宇津保物語新釈(刊)

- 玉琴（刊）
- 落窪物語（刊）
- 落窪物語註釈（刊）
- 枕草子春曙抄（刊）
- 清少納言傍注（刊）
- 紫式部日記絵巻（刊）
- 源氏物語（刊二種）
- 源氏六帖（刊）
- 源氏物語（写三種）
- 源氏物語玉の小櫛（刊）
- 源氏物語玉の小櫛補遺（刊）
- 源氏物語評釈（刊）
- 源氏物語だみことば（刊）
- すみれ草（刊）
- 源氏男女装束鈔（刊）
- 十帖源氏（刊）
- 源氏大和絵鑑（刊）
- 紫家七論（刊）
- 源語梯（刊）
- 紫文消息（刊）
- 紫文蟹之轉（刊）
- 源氏鬢鏡（刊）
- 源氏ひながた（刊）
- 繪本草源氏（刊）
- 日本紀御局考（刊）
- 手まくら（刊）
- 室町源氏（刊）
- 源註拾遺（刊）
- 源語秘訣抄（刊）
- 源註拾遺（写）
- 源氏小鏡（刊三種）
- 源氏十五ヶ諸抄書拔（写）
- 源氏男女装束抄（写）
- 少女巻抄注（刊）
- 源氏男女装束抄（刊）
- 源氏装束図式文化考（写）
- 河海抄（写）
- 源語奥旨（写）
- 源氏仙源抄（写）
- 岷江入楚（写）
- 源氏物語若草（写）
- 源氏物語切紙（写）
- 源義弁引抄（刊）
- 源氏物語（刊）
- 源氏物語系図（写）
- おさな源氏（刊）
- 其紫湖月双六（刊）
- そのゆかり源氏寿古六（刊）
- 狭衣（刊）
- 狭衣系図（写）
- 浜松中納言物語（写）
- とりかへばや（写）
- 宇治大納言物語（刊）
- 忍び音（写）
- 十訓抄（刊）
- 住吉物語（写一〇種、刊四種）
- 方丈記諺解（刊）
- 鴨長明方丈記抄（刊）
- 徒然草諸抄大成（刊）
- 徒然草吟和抄（刊）
- 徒然草抄（刊）
- 井蛙抄（刊）
- 徹書記物語（刊）
- 往生要集（刊三種）
- 十種香之記（写）
- 科註妙法蓮華經（刊）
- 西行法師一代記（刊）
- 興禅護国論（刊）
- 西行撰集抄（刊）

平家物語(刊)

保元物語(刊)

平治物語(刊)

宇治拾遺物語(刊)

古今著聞集抄(刊)

九曆(写)

本朝紹運錄続録(写)

明恵上人伝記(刊)

雅語訳解大成(刊)

古語訳解(刊)

詞葉新雅(刊)

史籍年表(刊)

和名類聚抄(刊)

新撰字鏡(写)

雅言抄(写)

雅言訳解(刊)

増補古言梯標注(刊)

雅言童喩(刊)

古言梯要拔(写)

御代始鈔(刊)

日本歳時記(刊)

装束図式(刊)

拾要抄(写)

大内裏全図(刊)

歌かたり(刊)

なしのもと集(写)

群書一覽(刊)

阿波国文庫図書目録(写)